

第3回 地球内部専門部会
議事録（案）

日時：2004年3月6日（土） 13:00～16:30

会場：海洋科学技術センター東京連絡所

出席者：

地球内部専門部会長：荒井章司（金沢大：ISSEP Co-chair）

地球内部専門部会長委員：阿部なつ江（JAMSTEC），海野進（静岡大；ISSEP 委員），
小原泰彦（海上保安庁；ISSEP 委員），道林克禎（静岡大），望月公廣（東京大），
山崎俊嗣（産総研；ISSEP 委員），

オブザーバー：小川勇二郎（筑波大；ISSEP 委員），徳永朋祥（東京大；ISSEP 委員），
山本啓之（JAMSTEC；地下圏微生物専門部会委員，ESSEP 委員），齊藤実篤（コン
ソーシアム IODP 部会長補佐），巽好幸（コンソーシアム IODP 部会執行部），江口
暢久（SAS オフィス），倉本真一・青池寛（以上 JAMSTEC/CDEX）

事務局（AESTO）：山川稔

欠席：山野誠（東京大：ISSEP 委員）

○部会長から資料の確認

○報告事項

1. 前会の議事録の確認

2. IODP 進行状況の説明

A) SSEPs 会議（2003年11月，ボールドー）の報告（荒井）

- ・ 新潟会議の形式を踏襲し，好評であった.
- ・ 日本文化の理解（？）のコーナーがあった.
- ・ 28 プロポーザルについて議論
 1. 著者へ返却（revise） 15 件，
 2. 外部評価 10 件，
 3. SPC へ 2 件，
 4. リジェクトに近いもの 1 件
- ・ リエゾンの基準をどうするか. 人数制限をもうけるかどうかは議論になった. 今
後検討すべき課題である.
- ・ 4つのWGに別れて，SSEPs のマニフェスト等の議論を行った.

WG の話し合い項目：1) パネルの人数，2) 5ster 制度，3) External review，
4) マニフェスト

SSEPs 自身がマンドートを決めるのはおかしいという意見が上がった。

・感想その他（パネル委員から）

- 人数が多く、時間が掛かりすぎる。リエゾンの発表が長い(多い)
- 日本側の人材の薄さが目立つ。日本人メンバーには負担が大きい。
- プロポーザル審査の方法は、いくつか異なる方式で試してみるべきである。

・ SAS からのお願い：異なる方式を試すのは良いが、毎回審査方式が異なる場合、プロポーネントに不利にならないよう配慮して欲しい。

3. IODP の現状と J-DESC の取り組みの説明（斉藤，巽）

・ 第 1 回 Sci MP の説明 木川さんの退任→笠原順三さんが新たなメンバーに加わった。

・ expedition の名前についての説明（倉本）

・ SAS オフィスの引っ越しについて（江口）

4 / 1 から札幌へ移転

5 月グラナダでの SSEPs 資料 CD の配付が遅れる可能性あり。

ワシントン DC での SPC 会議→3/28 もあり、4 月中旬になる可能性あり。

・ (巽)

IODP 国内研究支援体制について J-DESC からの提言とともに、来週 MEXT へ提出
「IODP における我が国の科学戦略」については、サイエンスの強化目指して、事前調査、事後研究、パネル委員の派遣費など予算の請求が主目的。

4. 深海環境保全（山本）

・ 国連へ提出 internet 上に HP が出る予定。

・ 熱水孔，海山など，生物が大量絶滅した事例が見つかった（JAMSTEC の深海調査）

・ 本件について IODP で組織立って議論することは，生物学分野では歓迎されている。

・ SPC には本件を上げることが決定している。

・ J-DESC 内で WG を立ち上げ，6 月 SPC までにアジェンダを上げる（一月前よりも以前）。議論はメールベース。

・ 内部部会からは，小原泰彦氏を WG メンバーに推薦する。

・ 生物学者とのコミュニケーションを先にする（ニュースとして流れると困る）。プロポーザルに項目として入るかもしれないし，事前調査等にも組み込まれる可能性もあり。

CDEX：掘る前に，環境調査をサイエンスとして進めて欲しい旨のドラフトを作成。オペレーションのポリシーに組み込まれる。

参考情報：(小原) エアガン，ダイナマイトの使用に関して。大容量エアガンもクジラ等に悪影響。掘削事前調査で規制がかかると困る。生物学者とのコミュニケーションが必要。

(倉本) アメリカはエアガンの使用を再開. 小さな音から始める.

○審議事項

1. 次回 SSEPs 対応

- ・ SPC (3月) ランキングはしない (NSF の予算が決まっていない)
ランキング年1回通常. 今年は2回の予定だった (累積分を消化するため)
- ・ グラナダ: 徳永さんがフルで出席不可能 alternate を出すかどうか? 後日部会長から連絡する.

2. 乗船研究者の募集, 推薦

「乗船研究者サポート体制の構築に向けて」執行部原案 (資料3) の説明 (齊藤)

- ・ 修士学生の乗船に関しては, 後見人 (指導教官) が責任を持つという点を確認し, 基本的に認める.

- ・ その他地下圏微生物, 地球環境両専門部会のまとめに基本的に賛成.

Q (荒井): co-chief 権限について説明して欲しい

A (倉本): 3-4年のコントラクト

乗船研究者を最終的に決定するのは IO

co-chief はサイエンスを進行させる義務 (事前事後, レポートの出版)

Q (海野) アメリカの応募者リストは見れるのか?

A (齊藤) 見ることは出来ない

Comment (小川) ODP 時代の選出過程は2回の meeting (co-chiefs, staff scientist) によって行われた.

Comment (巽) 国際的に最善の成果を上げる為には, 国際戦略で (non official に) コンタクトを取り, 乗船研究者を推薦していく必要もあるのでは.

(巽) J-DESC はアジアからの参加を推奨: アジア各国は単独メンバーではないが, 参加に意欲あり. 関連して, 3月末にシンポジウムを開催するよてい.

Q 留学生は?: A 問題無し. 日本に一時的にでも所属を持たせる (publication も日本の所属)

Q 日本人研究者と競合する場合はどうするか?: A, 日本人優先で良いだろう.

- ・ 乗船経験談ノート: update しながら ODP のものを継続する意向である (齊藤)
- ・ 人材難であることを認識すべきである (荒井).

3. IODP 我が国の科学戦略2の完成 (巽)

日本からのプロポーザル提出を増やす.

モホール, 背弧海盆のプロポーザルを戦略に盛り込むよう, アジア諸国との関係もはかりつつ, 内部部会で改訂版を出していく.

4. その他

- 1) (荒井) 関係者は、膨大なタスクに疲弊している。一方で、無関心な人達（関係のある大学人）にどう協力して貰うのか？工夫が必要。
 - ・(巽) 大学人取り込みに関しては、J-DESC で全国キャンペーンを行う
 - ・予算を取れないことが問題 予算が取れないと IODP を止めるくらいの覚悟 IODP 要求額 2-30 億円 一度に全額が付くのは難しいだろうが少しずつ増えるかも。
 - ・(荒井) 大学人は忙しいので、宣伝要求等の文書（正式？）を学長なり、効力のあるところへ送って欲しい。関係者本人に送っても意味がない。
- 2) モホール会議（3月4日、5日 JAMSTEC にて開催）の報告（阿部）
- 3) 技術者と研究者との懇談会 CDEX で企画中（阿部，倉本）
- 4) 「ちきゅう」見学 今年夏くらいまでは長崎で見学可能（CDEX）